

千葉市幕張新都心地区におけるバス輸送のBRT化構想

BRT

現状

幕張新都心地区におけるバス輸送については、運行開始(昭和60年)以来増加し続ける利用者に対応するため、平成10年12月には連節バスの運行が開始された。今後も、輸送力の維持のほか、利用者利便の向上が求められている。

◇幕張本郷駅前乗り場現況

- ・現在の幕張本郷駅～新都心間では1日530便、約19,000人の利用者
- ・急行のみで、ピーク時(午前8時台)24台/時の運行、約3,000人/時の利用者
- ・ピーク時には待ち行列が、駅自由通路までのびている

問題点

- ◇NOx・PM法規制により、現行連節バスの使用期限が、平成22年に到来。
 - ◇駅前広場の構造上、現状以上の増便は困難。
 - ◇将来的な就業人口の増加も見込まれている。
- 幕張新都心の基幹交通として、引き続き代替の連節バスでの輸送が必要

対応方策

連節バスを運行する京成バス(株)より、連携計画の策定について提案があったことを受け、幕張新都心とJR幕張本郷駅を結ぶ連節バスの利便性向上方策(PTPS導入や鉄道との運行情報提供等)に関する調査を行う。

【今後の実施を検討している取り組み】

- ・代替の連節バスの導入
- ・鉄道との運行情報相互提供
- ・バスロケーションシステムの導入
- ・PTPSの導入

地域公共交通活性化・再生総合事業(策定調査)



ピーク時の状況



現行の車両